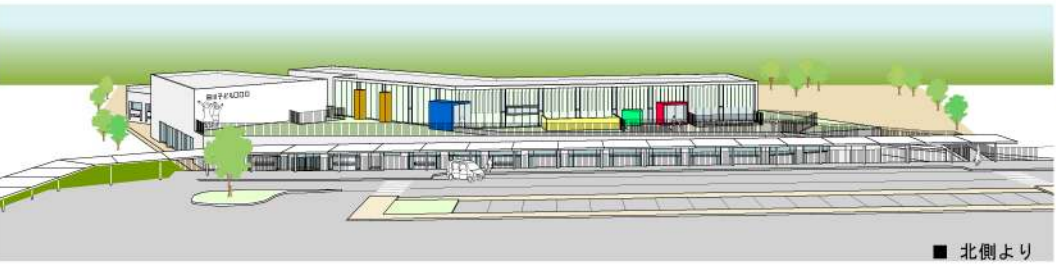


設計主旨説明書

整理番号



■ 北側より



■ 南側より

子どもを包むパースペクティブ

子どもを温かく包みこみ、その活動を支援するという視点 (perspective) から、保育室を包む遠近感 (perspective) のある空間を提案します。

敷地の高低差を生かした外部からのアプローチ

新園は、建設費軽減のために現況の敷地形状を生かし、グラウンド側に集約して計画します。玄関は前面通路の最も低い北東側とし、玄関ホールから共用、幼稚園ゾーン、保育所ゾーンへと緩いスロープで下り、現況の地盤レベルに合わせます。

子育て支援センターと会議室は2階とし、敷地西側の最も高い地点からスロープで直接入ることができます。

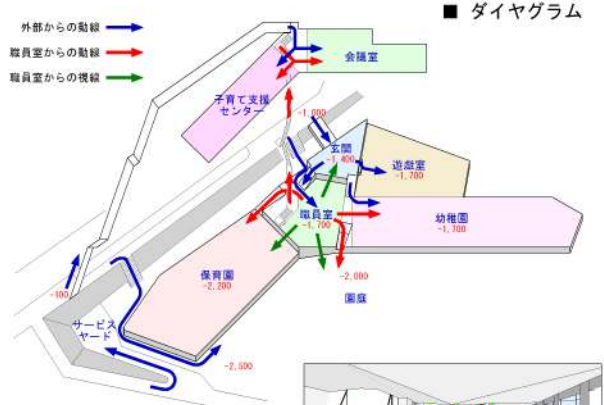
災害時の非常用電源やLPGバルクなどの設備機械類は、高低差の大きい敷地西側に目立たずに集約し、車で寄り付きが可能なサービスヤードを設けます。この進入路は、調理室への搬入通路ともなります。

既存の階段を活用し、東側は職員の通用口とします。西側は、園庭側へ直接行ける経路とし、テラス側からの子どもの送迎も可能としています。

職員室を中心とした機能的な内部動線

職員室を中心に幼児ゾーンを東西に分離し、2階の子育て支援センターと会議室へは、隣接する階段から最短距離で行き来できます。室内から玄関ホールと園庭、保育所の保育室を見通せ、園庭への出口も設けているのですぐに出ていくことができます。

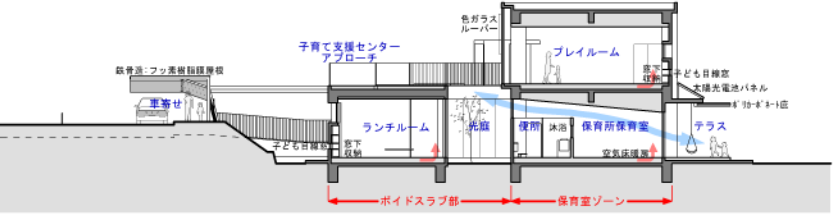
遊戯室は、イベント時の観覧者や災害時の避難所利用を考慮し、玄関ホールに直結した位置とします。



■ ダイアグラム



これらの多様な動線をコンパクトに解決するために、幼児の保育室ゾーンと平行でない外壁ラインを設定します。平面の角度と断面のレベル差による変化に富んだ室内は、子どもたちの記憶に残る魅力的な空間となります。



大きな半屋外空間

施設前面の歩道に庇をかけ、車寄せをつくりまします。子どもの送迎時には、雨の日でも濡れずに車から乗り降りし、傘を差さずに室内まで入って行くことができます。屋根材をフッ素樹脂膜とすることで薄暗くなりません。

保育室前の奥行き3.5mのテラス全面に、大きな庇を設けます。軒下には、ターザンロープやハンモックといった子どもの遊び場として使える様々な仕掛けを用意します。庇の先端1.5mをポリカーボネート板とすることで、室内の採光を確保しつつ紫外線をカットし、さらに構造的負担も抑えます。

フレキシブルな構造計画

幼児の保育室ゾーンは、1、2階とも可動間仕切りによる大空間を実現するため、耐力壁を設けない純ラーメン構造とします。間口方向のスパンを4mと密にして柱を細くし、家具配置の妨げにならないよう外に出します。

保育室ゾーン外側の平屋部分は、外壁面を厚い壁柱としてポイドスラブを支持する構造とします。梁せいの制約を無くすることで、レベル差のある空間が一体的につながります。

遊戯室は、スパンが10m以上の梁をPRC造とし、比較的低コストで柱のない大きなホール空間を実現します。

壁面収納と子ども目線窓

外壁面の壁柱は、その厚みが内付け窓の庇となります。窓下を利用した収納は、施設全体で延べ56mの長さとなり、中央には子どもの目線高さに窓を設けます。

快適な便所と明るい保育室

保育所の便所には、隣接して光庭を設けます。幼稚園保育室の便所は、上部を屋上に立ち上げ、トップサイドライトを設けます。両室とも南北両面から光を採り入れ、風が通り抜ける断面とし、臭気対策とともに機械設備の負荷の低減をはかります。

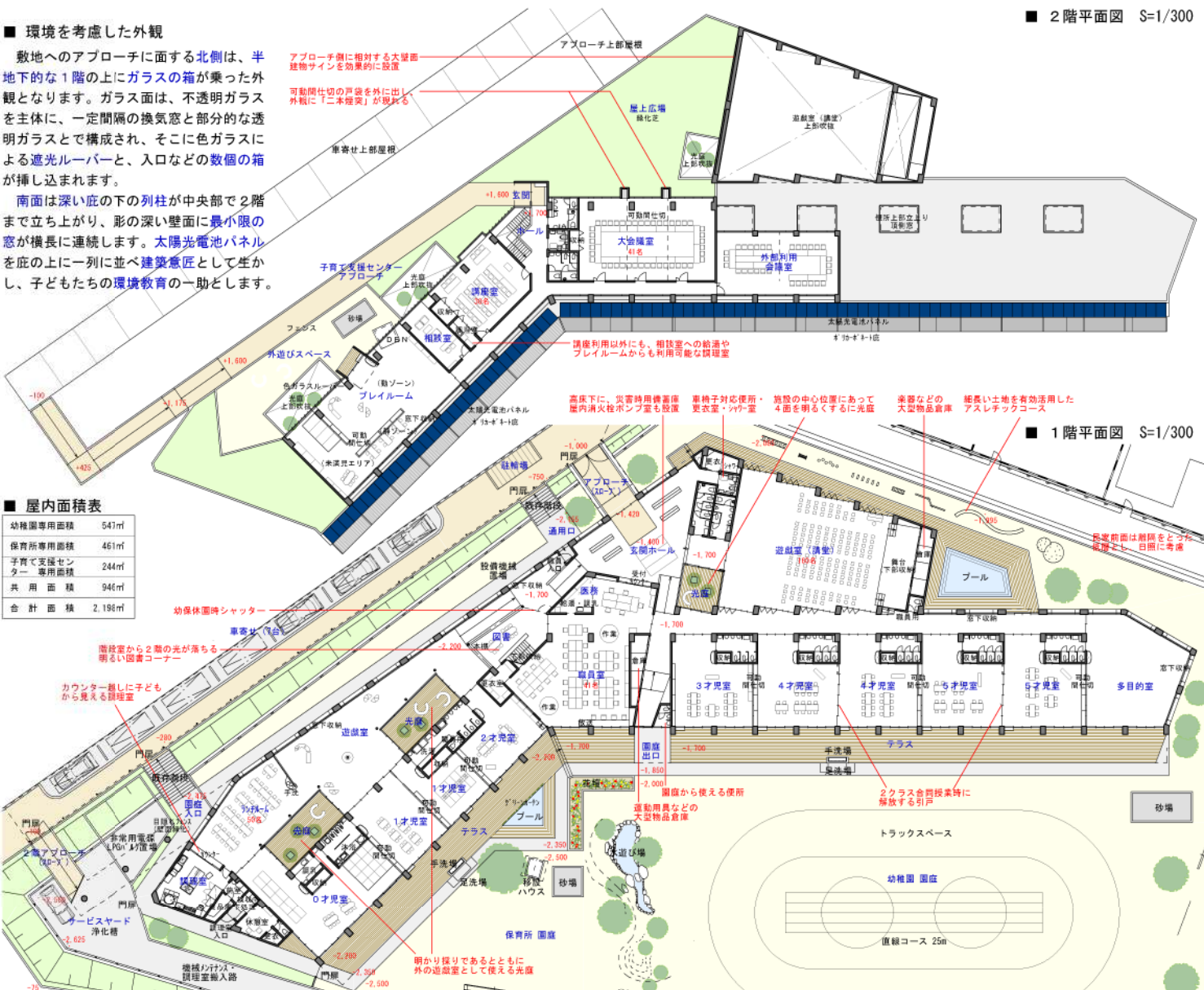
環境を考慮した外観

敷地へのアプローチに面する北側は、半地下的な1階の上にガラスの箱が乗った外観となります。ガラス面は、不透明ガラスを主体に、一定間隔の換気窓と部分的な透明ガラスとで構成され、そこに色ガラスによる透光ルーバーと、入口などの数箇の箱が挿し込まれます。

南面は深い庇の下で列柱が中央部で2階まで立ち上がり、影の深い壁面に最小限の窓が横長に連続します。太陽光電池パネルを庇の上に一列に並べ建築意匠として生かし、子どもたちの環境教育の一助とします。

屋内面積表

幼稚園専用面積	547㎡
保育所専用面積	461㎡
子育て支援センター専用面積	244㎡
共用面積	946㎡
合計面積	2,198㎡



■ 2階平面図 S=1/300

■ 1階平面図 S=1/300

明るく広い玄関ホール

各方向への動線の起点となる玄関ホールは、避難所利用も考慮し広めに設けます。正面に光庭があることで、奥行きがありながら明るい空間となります。高床となった下部を災害時の備蓄庫として活用します。



機能的な職員室

受付近くカーテンで仕切れる医務コーナー(ベッド2台)を設けます。流しを備え、調乳と職員室の給湯室を兼用します。グラウンド側に放送設備、階段側に更衣室を備えます。玄関、園庭、保育所保育室だけでなく、東西の出入口から図書コーナーと遊戯室側の様子も見通すことができます。

幼保休園時には階段室周りにリングシャッターを降ろし、職員室と図書コーナーを子育て支援センターのみで使用できます。

用途に応じて変化する遊戯室

遊戯室は側面が折戸により全開放し、北側のデッキまで続く遊び場になります。イベント時には側面を閉じ、正面から入場する厳肅なホールとなります。舞台が見やすい台形平面であり、側面の廊下が楽屋動線となります。災害時の避難所として利用される際も、折戸を解放することで、さらに拡張して利用することができます。



庇の下の様々な活用

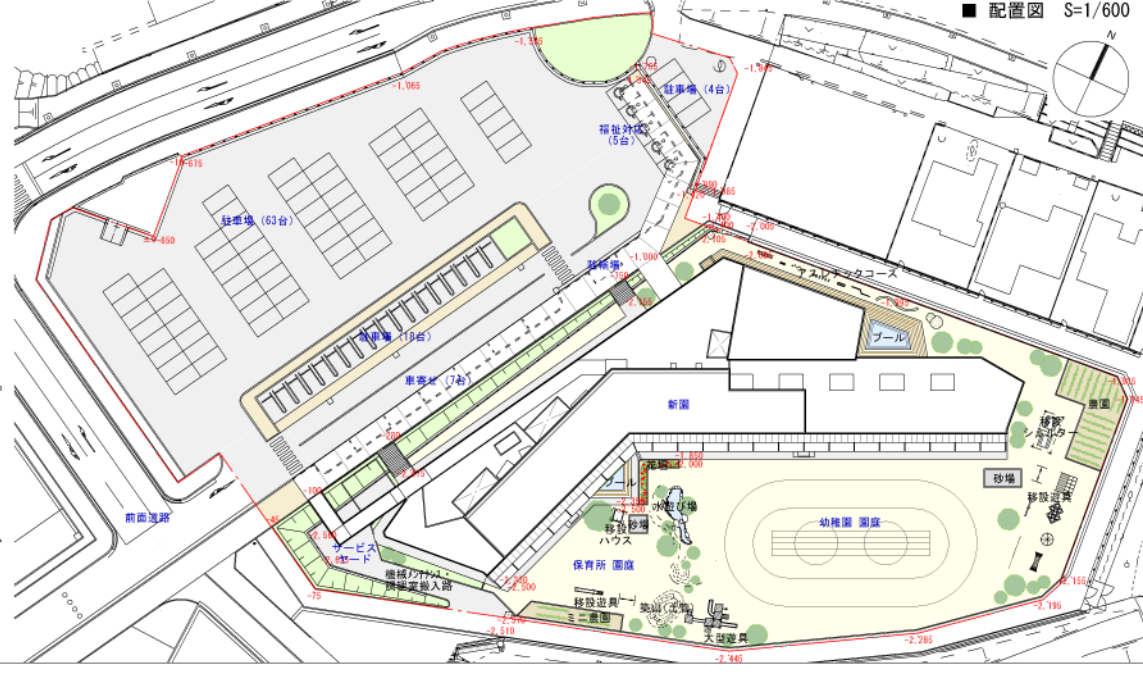
テラスには夏の暑さしのぎにドライミストを設置し、冬はビニールカーテンで囲まれたサンルームになります。また、保育所のプール周りには手摺を兼ねたグリーンカーテンを設けます。【イメージ写真】



省エネルギーに配慮した設備計画

地下のクールチューブを通じて、冬は暖かい、夏は冷たい外気を24時間導入します。雨水を地下ビットに蓄え、便所や植栽の散水に利用します。2か所のプールは常設型とし、使用した水は簡易濾過をした後、雨水タンクに導き、合わせて利用します。暖房は二重床の中にエアコンの温風を吹き込む方式とします。床面を温めることで、上下の温度差を解消します。

1、2階とも二重床とすることから、将来は容易に配管やケーブルの更新・変更が可能です。



■ 配置図 S=1/600